

## 【研究ノート】

## Content-based 学習とコミュニケーション

早坂慶子

## 目次

- I. はじめに
- II. Content-based Learning Project の目的
- III. 実施方法
- IV. 結果と分析
- V. 問題点
- VI. まとめ

## I. はじめに

巷では相変わらず「日本人は英語ができない」と、いわれつづけており、その原因の解明もいろいろな角度から試みられているが、いまだにその答えは見つかっていない。

このことでよく引き合いに出されるのが TOEFL の成績である。近年の報告では 218 参加国・地域の中で日本は下から 13 番目、アジアの国々に限ってもタイ、モンゴルの 2 カ国を下に置くだけだという（鈴木 1999 : ETS 1997-98）。また、宮原他が韓国、中国、日本 3 カ国の大学生 1,781 名について TOEFL タイプの英語運用力テストを実施したところ、平均点が最も高かったのは中国で、それに韓国が続き、日本は最下位であった（宮原他 1997）。同じ宮原らの調査では被験者の学習動機についても日本人学生の特異性を指摘している。つまり中・韓の学生に比べ日本人大学生は英語学習の目的や理由があいまいであり、学習意識に切迫感を欠いているとする（p.263）。日本人が英語ができないのは学習

動機、ニーズ、目的意識の低さが原因であるとしたり、はたまた「日本人全体の言語観」ゆえ（水谷 1999）だとする見方もある。

しかし一方では小学校で「総合的な学習の時間」に英語を導入することが提案される（教育課程審議会答申「各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的考え（国際化への対応）平成 10 年 7 月 29 日」）など、国際理解・異文化理解を体験的に学習する、いわゆる早期英語教育への関心が一気に高まった。この背景には、国際理解を促進するものとして英語を学習しようという意図があることは確かである。実際の場面をみると、国際交流が盛んになり、政治・経済・文化いずれの場面でも人的交流が活発で、共通言語として英語が使われる場面が多くなっている。インターネットが普及し、英語が重要になってきた、ということもある。ある説ではインターネットに使用される言語の 90% は英語であるという。

このような状況を反映して英語教育改善への期待がますます大きくなっている。その最たるものはコミュニケーションの方策としての英語習得ということになる。訳読式教授法は過去の遺物と化し、オーラル中心のネイティブ教員による実践的英語学習が盛んになっている。また、教材もこれに対応するものが増え、CD-ROM などのマルチメディア教材も増加している。

一見すると最近の英語教育が実践的で、指導者、使用教材・機器の充実と相俟って、そ

の目標とする「実践的英語の習得」「コミュニケーション中心の英語学習」が実現しているかに見えるが、現実には様々な問題を抱えており、オーラルに重きを置きすぎるばかりに、大学生の英語能力などは衰退しつつあるときえ言われるようになった(雨宮1999)。沖原(1999)は大学の提供するものと学生が求めるものとにギャップがあり、そのギャップを大学、社会の双方が許容しなくなっているのがその原因であるとする。その前提に立って氏は学生の分野別専門的英語運用能力を培う必要があると説く。

…それまでに仕込んだ言語材料を特定の用途に供することができるようにして、学生の要求に応じていくことである…ESPや高等教育の内容をこなせる英語力の養成を目指すことが求められる。たとえば、インターネットが活用できるような情報処理能力の一部としての英語力、人文、社会、自然といった各分野に応じた学習技能、文献読解力、論文作成力、口頭発表力などを含むことになる。いずれもしっかりした文字言語が基礎となって発現する技能である。(p.25)

ここで沖原が主張するのは、学生の専門性を生かす英語教育の実現であり、それがアカデミックなレベルにまで到達することの可能性を暗示しているのである。まさに大学でなければできないような英語教育を目指していることになる。

以下筆者が学生の専門性を生かした共通科目英語のあり方の一つとして実践したContent-based授業について報告する。

## II. Content-Based Learning プロジェクトの目的

著者が本論で主張することは、沖原の見解と一致する。大学3年目の学生が共通科目で履修する英語の意味と役割を考えた場合、

ESPの要素を払拭するわけにはいかない。

Content-based instruction: a program in English as a second language in which the focus is on teaching students the skills they will need in regular classrooms, i.e. for learning in the content areas such as maths, geography or biology. (Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics, 1992)

筆者が勤務する大学の福祉心理学科3年目学生の共通科目「英語」(選択必修)履修者を対象とし、授業の一環としてContent-based learning を実施した。彼らが専門科目授業で熟知しているアンケート調査、SASを使った統計処理の手法、およびプレゼンテーションが利用できるプロジェクトを計画した。電子メールを用いた英語によるアンケートを実施し、その結果をまとめ、発表するというものである。

## III. 実施方法

Step 1 : 英語による電子メール通信に慣れるため、プロジェクト開始に先立ち、メーリングリストに参加し、英語ディスカッションを行う。

Step 2 : クラスを6, 7名からなる任意のグループに分け、それぞれでアンケート調査の内容を検討し、決定する。

Step 3 : 英文アンケートを作成、インターネット上で配布と回収を行う。グループ単位での配布が可能という点からメーリングリストでの実施を第一と考え、不足分は個人宛て配布等も検討する。

Step 4 : データの集計と分析、文献・資料の収集。

Step 5 : 調査結果の口頭発表。研究成果の交換および専門科目で履修済みのプレゼンテーション技能を利用することで、Content学習

効果を高める。使用機器：OHP/OHC。

Step 6：調査報告書作成。

#### IV. 結果と分析

Step 1：International EFL/ESL Email Student Listsにクラス単位で登録，参加心得等を記した「ガイドライン」に沿って10のリストを自由に選択した。Semester期間中最低週1回は投稿する，というルールを設けた。英文作成と発信をContent-basedに則って実践するためである。

期間中学生は平均6.6通投稿し，Music-SL, Movie-SL, Sport-SL, Chat-SL等でディスカッションに参加した。通常，相手探しや英語レベルの違いなどのため，教室外で英語によるコミュニケーションを実践するのは容易なことではなく，せっかく学習した技能が生かせないことが多い。従って実践しながら技能を向上させるということも叶わない。メーリング・リストに参加するとうような問題は解消される。また，電子メールで使われる言葉は，書き言葉というモードにもかかわらず話し言葉の特徴をも表し，対面コミュニケーションに近い形の情報交換が実現するとの研究もある（Simmonsほか1996，早坂他1997）。リスト上には常に相手があり，特にこのリストの場合は全員が英語を外国語とする学生ばかりなので，今回の参加者も安心して投稿できたようである。その証拠に，彼らを取り上げた話題は，英語の学習のためというよりは，彼らの日常生活に密着した趣味の話題，あるいは時事問題，異文化への興味によるものが多かった。このリスト参加にかかる通信文の特徴，アンケート結果については早坂他（1999）を参照されたい。

Step 2-Step 4：Group Project Calendar（付録1）に従ってグループを編成し，アンケート調査内容について検討した。これは，それまでに培ったグループディスカッションの技法を用いた英語ディスカッションを実践

する場でもあった。

調査目的に沿った英文アンケート完成。授業担当者が若干の添削を行った以外は，すべて学生中心の作業である。アンケート依頼に際してはそれが調査目的以外には使われず記載事項の秘密は守られること，結果は報告されるものであることなどを付け加えた。主たる配布先が，スーパーバイザーの管理下にあるとはいえ，世界中に散らばる不特定多数のインターネットメーリング・リスト登録者であることを考えると，異文化への対応には細心の注意を払う必要があった。

アンケートが完成したグループから，英語を第2外国語として学習中の登録者が入っている2つのメーリング・リスト：International Student Discussion Lists（SL-LISTS）とIECC（Intercultural E-Mail Classroom Connection）にまず投稿した。これらリストの中で前者はCHAT-SL，後者はIECC-SURVEYへの投稿である。

投稿開始時から学期末までのおよそ6週間で学生が得た有効回答をグループ別に見ると，表1のようになる。

表1 アンケート回答者数

グループ	回答数	男	女	不明
1	114	21	86	7
2	104	23	81	
3	96	12	84	
4	124			
5	102			
合計	540			

回答者の居住地/国籍はイタリア，アメリカ，スペイン，ネパール，チリ，フランス，メキシコ，韓国と，多岐にわたる。但し，様々な理由から居住地，国籍等は明確に区別することはできない。中には集計の段階で記載していないものもある。これもインターネット利用ゆえの現象といえよう。

当初，本プロジェクトはアンケート回収をもっと早く想定していたのだが（投稿開始後

4週間目)、期待通りに回収できなかったため、期間を延長した(最終的には6週間を費やした)。

問題は2つある。一つは投稿の時期の問題である。プロジェクト開始後「感謝祭」「クリスマス」という大きな行事に遭遇し、メーリング・リスト参加者が減少したこと。もう一つはIECC-SURVEYがアンケート専用のリストであり、ここに投稿すれば間断なく回答が得られると期待したのだが、現実には下のダイジェストにあるとおり、多くのアンケートが寄せられる反面、登録者の中でこれら一つ一つに関心を持って回答する学生は少なかったようである。実際、今回の対象学生も自分のアンケートには回答してほしいが、リスト上のアンケートには、時間や英語力の問題から中々回答できなかったという報告があった。投稿と回答のアンバランスという問題が生じたわけである。

もう一つは、メーリング・リスト運営にかかる、カレンダーの問題である。リストは年中そして国境なくつながっているわけだが、それぞれの国の学年暦により開講期間がずれるため、登録者全員が常時議論に参加しているわけではない。SL-LISTS 管理者の一人であるThomas Robbはこのアンバランスを調整すべく、世界中の学校の学年暦を調査し、その結果を発表し、投稿者が相手を確保できるようにしている。

投稿数と回答者数のアンバランスを解決するのは容易なことではない。興味ある質問内容、あまり時間をかけずに回答できるような長さやトピックなどを心がける必要がある。

#### IECC-SURVEYS DIGESTの例

Subject : IECC-SURVEYS DIGEST for  
Thursday, November 25, 1998  
[iecc-surveys@stolaf.edu](mailto:iecc-surveys@stolaf.edu) DIGEST  
Thursday, November 25, 1998

Contents:

Holidays

Survey: "finding websites that could help students to improve their English"

Reply please!

Food survey

Project: "Italian-American history exchange"

など39件

従って表1の数字には2つのメーリングリストによる回答のほか、個人への協力依頼分も含まれている。アンケート協力依頼はすべて電子メールで行ったが、中にはインターネットへのアクセスの問題から、回答はハードコピーで送付されてきたものもある。すべてをあわせて540件の回収となった。

Step 5 : これまでの集計結果を、SASを用いて、データ分析し、「プレゼンテーション」履修の経験を踏まえて、各グループの代表が口頭で発表した。通常講義の中で経験しているものを英語に置き換えて実施しているわけで、学生の負担も想像するほどには重くない。表やグラフをOHP/OHCで提示するなど、プレゼンテーションは聴衆に訴えるのに十分であった。

Step 6 : 口頭発表の後、分析等の手直しをし、最終的にはA4サイズ、ワープロ仕上げの報告書を作成した。その際体裁、ページ数などに制限は加えず、グループの自主性に任せた。従って、統計処理については共通の手法を用いているが、段の組み方、表やグラフの扱いなどは統一されていない。

著者は英語の誤りに手を加える事はせず、提出された報告書に通し番号を付し、目次を追加して製本するに止めた。従って間違いも多々あるが、それはAccuracyを問うよりは、Contentを重視したからに他ならない。完成した報告書は全33ページからなる(付録2)。

## V. 問題点

### アンケート実施の心得

アンケート実施に際してはいろいろとルールがあり、今回も細心の注意を心がけたつもりだが、英語であるということで、細部まで注意が行き届かなかったことは否めない。また、回答者の属する文化によっても受け取り方が異なっていた。たとえば、リストではなく個人的に配布（転送）協力を依頼したあるアメリカ人女性から、以下のようなコメントが寄せられた。

（福祉心理学科学生をpsychology majorsとしたことに対して）

"... One thing that I would not add is that they are psychology majors which might discourage some responses. Psychology and counseling are fields taken quite seriously here and to have students who are not licensed yet to solicit responses. Even licensed people or student researchers must use detailed confidentiality forms before doing any survey or interviews."

同様に、質問項目に加えた年齢や宗教の有無なども回答者の文化からして好ましくないなど、指摘を受けたものがある。調査内容からぜひ盛り込みたい項目であったのだが、デリケートな部分である。学生にとって貴重な異文化学習の機会となった。

アンケート実施の時期に関しても一考を要するということがわかった。インターネットで共時的作業をする場合、休暇時期のずれなどは避けられない。タイミング設定に難しさがある。

## VI. まとめ

英語のニーズをあまり感じない非英語専攻

学生、学習動機の低い学生でも専門科目の学習には熱心なものである。本プロジェクトに参加した学生は、Content-based learningの実践で英語学習の意味を理解し、興味を持って取り組んだと思われる。

また、インターネットを用いたインタラクティブなコミュニケーション活動に対しては、「他国の英語学習者を知るよい機会」、「異文化を学んだ」、「専門を同じくする相手とディスカッションできて良かった」（記述アンケート結果）との評価を得た。

教師にとっても変化がある。コンピュータ・リタラシーがあり、アンケートの手法、統計処理も周知している学生を相手にContent中心の授業を展開するという点で、教師の役割は指導型からfacilitatorに転じることになる（朝尾1996）。

Contentを中心にしたアカデミックな英語指導を実践することで、非英語専攻学生に対しても学生の知的レベルに相応する英語指導が可能であると思われる。

### [引用文献]

- 雨宮正彦 「何が思考能力を奪ったか」『英語教育』Vol.48, No.7, 1999. pp.11-13.
- 朝尾幸次郎「授業計画の作成とその評価」『英語教育'96別冊インターネットと英語教育』大修館1996. p. 141.
- 早坂慶子, 吉田翠, 堀内満智子「発信型英語学習のためのインターネット利用」『平成9年度情報教育問題フォーラム第5回情報教育方法研究会資料』私立大学情報教育協会。1997.
- 早坂慶子, 上野之江, 阿部晃夫, 宮町誠一, 尾田智彦, 佐々木正志, 横山京子, 吉田翠『E-mail Analysis of Japanese University Students』AILA'99 Tokyo. August 2, 1999. ハンドアウト
- 宮原文夫, 名本幹雄, 山中秀三, 村上隆太, 木下正義, 山本廣基『このままでよいか大学

英語教育一中・韓・日 3 カ国の大学生の英語学力と英語学習実態』松柏社1997.

slhowto. html

水谷修「情報創造のための言語教育を」『言語』  
Vol.28, No.3, 1999, p.62-69.

付録 1

A Group Project Calendar

中原勝昭 「大学生の英語力」とは何か』『英語教育』Vol.48, No.7, 1999, pp.23-25.

Period: Oct.28, 98 ~ Dec.16, 98

Section Members:

Richards, J., J. Platt and Heidi Platt.  
1995. *Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics*. England: Longman Group UK Limited.

Name of the project:

Purpose:

Survey questions:

鈴木孝夫 『日本人はなぜ英語ができないか』  
岩波書店1999, p.6.

Hypothesis:

IECC サイト <http://www.stolaf.edu>

Subjects:

International Student Discussion Lists  
(SL-LISTS) サイト

付録 2 Procedure Report

<http://www.kyoto-su.ac.jp/~trobb/>

Instrumentation:

付録 2 Procedure Report

Hayasaka (ex. 474, hayasaka@hokusei.ac.jp)

Date	Work	Staff	Details	Consulting hayasaka
	Project Design Purpose Survey questions Question items			
	Conducting the Survey Mailing Lists			
	Collecting Analyzing Data			
	Paper writing			
Dec. 9-16	Oral presentation publication			

付録 3 グループ別アンケートおよび報告書ア  
ブストラクト (原文のまま)

Group 1: What's Stress?

Abstract

This study was conducted to find what degrees of stress we feel in several situations. Our survey has 17 questions. This

survey was sent worldwide through the Internet. 114 subjects responded this survey. Statistical analysis of the collected data showed five things. First we found that the degree of our stress was not significantly different in these three situations: when we are busy and we don't have enough time and we feel we were lack of

sleep. Second, we found that they feel more stress when they have to solve difficult problems by ourselves than when they have to solve difficult problem with a friend. Third, we also found that they feel the same degree of stress when they meet with a stranger of the opposite sex and when they meet with a stranger of the same sex. And we found that they feel more stress when people have more class or people don't have enough free time. Last, we found that female feel more stress than male when they have to solve with a friend and they are lack of sleep.

Survey questions

Please write your answer in ( )

1. Sex 1.M 2.F ( ) 2. Age ( )

3. Do you have a part-time job?

1. Yes 2. No ( )

Yes——How long do you work in a day? ( ) hours

4. What is your average class numbers per week? ( ) classes

5. I feel stress now. ( )  
Not Applicable 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7  
Completely Applicable

6. When do you feel stress?  
Not Applicable 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7  
Completely Applicable

a. I feel stress when I meet with a stranger of the opposite sex. ( )

b. I feel stress when I meet with a stranger of the same sex. ( )

c. I feel stress when I have to solve a difficult problem by myself. ( )

d. I feel stress when I have to solve a difficult problem with a friend. ( )

e. I feel stress when I am busy. ( )

f. I feel stress when I don't have enough free time. ( )

g. I feel more stress when I feel I am lack of sleep. ( )

7. I have enough free time now. ( )  
Not Applicable 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7  
Completely Applicable

8. I have enough sleeping time now. ( )  
Not Applicable 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7  
Completely Applicable

9. How long do you usually sleep a day? ( ) hours

10. I'm satisfied with my interpersonal relationships with friends and acquaintances now. ( )  
Not Applicable 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7  
Completely Applicable

11. I'm healthy now. ( )  
Not Applicable 1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6 - 7  
Completely Applicable

Group 2 : The effect of nonverbal communication toward intimate human relationship

Abstract

This study was conducted to find the effect of nonverbal communication toward intimate human relationship. Our survey has ACT scale psychological distance. This survey was sent worldwide through the Internet. 104 subjects responded this survey. Statistical analysis of the collected data showed that ACT scale didn't affect so much. Difference by sex didn't, either.

Survey questions

Sex

1. male 2. female [ ] (type 1 or 2)

Age [ ] (type your age)  
 Nationality [ ] (type your  
 nationality)

[When you answer you type the most  
 suitable number which into the  
 bracket.]

Question 1

Please rank your mental distance be-  
 tween you and the following person  
 from 1 (very close) to 7 (very far) .

- 1 father [ ]
- 2 mother [ ]
- 3 best friend [ ]
- 4 friend (the same sex) [ ]
- 5 friend (the opposite sex) [ ]
- 6 teacher [ ]
- 7 classmate [ ]
- 8 lover [ ]

Question 2

Please type the number from 1 to 9.  
 not applicable 1 2 3 4 5 6 7 8 9 most  
 applicable

- 1 When I hear good dance music, I can  
 hardly keep still. [ ]
- 2 My laugh is soft and subdued. [ ]
- 3 I can easily express emotion over the  
 telephone. [ ]
- 4 I often touch friends during conversa-  
 tions. [ ]
- 5 I dislike being watched by a large  
 group of people. [ ]
- 7 People tell me that I would make a  
 good actor or actress. [ ]
- 8 I like to remain unnoticed in a crowd.  
 [ ]
- 9 I am shy among strangers. [ ]

10 I am able to give a seductive glance if  
 I want to. [ ]

11 I am terrible at pantomime as in  
 games like charades. [ ]

12 At small parties I am the center of at-  
 tention. [ ]

13 I show that I like someone by hug-  
 ging or touching that person. [ ]

Group 3: Images of Volunteering  
 Activities

Abstract

There is a difference of images of vol-  
 unteering activities between Japanese and  
 foreigners. We assumed a religion, expe-  
 rience and interests in volunteering.  
 Results indicated three significant ten-  
 dencies. First, a person that has religion  
 regarded volunteering as warm and dig-  
 nified. Second, a person that has experi-  
 ence of volunteering activities regarded  
 volunteering as kind, desirable and  
 happy. Third, a person that has interest  
 in volunteering take it with positive im-  
 age.

Survey questions

- 1 Your Sex : 1.Male 2.Female  
 ( )
- 2 Your Age : ( )
- 3 Nationality : ( )
- 4 Do you have a religion?  
 Yes No ( )
- 5 Have you ever had experience about  
 volunteering activity?  
 Yes No ( )
- 6 Do you have an interest in volunteer's  
 activity? Yes No ( )
- 7 What do you imagine from 'the volun-  
 teering activity' ?

Rank your image about volunteering activity and put the suitable number in the parenthesis.

- a.worthless 1 2 3 4 5 worthy ( )
- b.dull 1 2 3 4 5 pleasant ( )
- c.bad 1 2 3 4 5 good ( )
- d.warm 1 2 3 4 5 cool ( )
- e.happy 1 2 3 4 5 unhappy ( )
- f.insincere 1 2 3 4 5 sincere ( )
- g.gloomy 1 2 3 4 5 cheerful ( )
- h.unnecessary 1 2 3 4 5 necessary ( )
- i.kind 1 2 3 4 5 unkind ( )
- j.proud 1 2 3 4 5 not proud ( )
- k.misery 1 2 3 4 5 great ( )
- l.undignified 1 2 3 4 5 dignified ( )
- m.unapproachable 1 2 3 4 5 familiar ( )
- n.insignificant 1 2 3 4 5 significant ( )
- o.thoughtless 1 2 3 4 5 thoughtful ( )
- p.regardless 1 2 3 4 5 interest ( )
- q.ignorant 1 2 3 4 5 intelligent ( )
- r.undesirable 1 2 3 4 5 desirable ( )

Group 4: Japanese Image on Japanese

Abstract

This study was conducted to find the difference of Japanese Image between Japanese and foreigners.

Our survey was sent worldwide through the Internet. 64 subjects responded this survey. Statistical analysis of the collected data showed we could support first hypothesis, "There are difference image on Japan between Japanese and foreigners" but couldn't prove the second hypothesis, "Foreigners who have interest in Japan have good

image on Japanese".

Survey questions

- (1)Your sex (1.male 2.female) [ ]
- (2)Your age [ ]
- (3)Your nationality [ ]
- (4) What do you think about image on Japanese people?  
Please write the alphabet in the blank.  
Example: If your opinion is "very small", please write answer [A] or [D] for "between small and large".

- Small A-B-C-D-E-F-G Large [A]
- a.Hostile A-B-C-D-E-F-G Friendly [ ]
- b. Gloomy A-B-C-D-E-F-G Bright [ ]
- c. Poor A-B-C-D-E-F-G Rich [ ]
- d. Lazy A-B-C-D-E-F-G Diligent [ ]
- e. Vulgar A-B-C-D-E-F-G Elegant [ ]
- f. Unkind A-B-C-D-E-F-G Kind [ ]
- g. Short-tempered A-B-C-D-E-F-G Patien [ ]
- h. Negative A-B-C-D-E-F-G Positive [ ]
- i. Egoistic A-B-C-D-E-F-G Cooperative [ ]
- j. Rude A-B-C-D-E-F-G Polite [ ]
- (5) How much interest do you have in Japan?  
Not at all A-B-C-D-E-F-G  
Very much [ ]



[Abstract]

## Content-based English Learning and Communication

Keiko HAYASAKA

In a third year general English class in the Faculty of Social Welfare at Hokusei Gakuen University, students in small groups designed a survey, collected responses over the Internet and analyzed their collected data by computer. This content-based approach took advantage of students' technical knowledge in their field of study.

Social Welfare students have experience designing research surveys and analyzing data. In small groups, students chose a research topic and designed a survey to test their hypotheses on topics such as stress, the effect of non-verbal communication on relationships and images of volunteer activity or Japanese people and ways of communication. The surveys were distributed on an internet mailing list for EFL students. In this project, students were able to apply their own expertise in analyzing the data with SAS and making graphs for the report.

The junior students involved in the program learned about intercultural communication not only from their textbook but from actual interaction with respondents from the Internet. They appreciated the opportunity to use English in a professional and communicative way.